「STI for SDGs」アワード　応募要領※

「STI for SDGs」アワードは、科学技術・イノベーション（Science, Technology and Innovation：STI）の力で社会課題を解決し、SDGs の達成に一層貢献することを目指して、JST が 2019 年度に創設した表彰制度です。本アワードは、STI を使って社会課題を解決する日本発の優れた取組を見出して表彰し、それらをさらに発展させるとともに、同様の課題を抱えている国内外の他の地域でも広く活用されることで、SDGs の達成に貢献することを目指しています。2030 年の SDGs 達成に向けて策定された国の「SDGs アクションプラン 2023　～SDGs 達成に向け、未来を切り拓く～」における「各府省庁の具体的な取組」の一つにも含まれているものです。

STI という言葉の響きから、最新技術・先端技術を使った取組を想像されるかもしれませんが、本アワードでは、科学技術の先進性やレベルだけを重視しているわけではありません。既に社会に流通している既存の技術をどのように工夫して活用しているのか、その取組によって 2030 年に向けて社会をどう変えていきたいと考えているのか、国内外への展開の可能性など幅広い観点での審査を行います（評価項目詳細は別紙２を参照ください）。残念ながら SDGs 達成の進捗は決して芳しい状況ではありませんが、本アワードでは、優れた取組を見出し広く社会に展開していくことで、より大きな社会変革を起こし持続可能な未来の創出に貢献したいと考えています。大学や企業の研究成果の社会実装を進める取組、企業・自治体・一般市民など様々な立場の方の協力によって行われている取組、次世代を担う若い世代の皆さんによる取組など、分野や立場を問わず科学技術の力で社会課題解決を行い SDGs の達成を目指す、日本発の取組を広く募集します。皆様からのご応募をお待ちしております。

ご応募にあたっては本要領を必ずご一読ください。また、別紙 4 として本アワードの主旨などを記した「委員長メッセージ」を添付しておりますので、こちらもぜひご一読ください。

１．募集対象

科学技術・イノベーション（STI）を用いて社会課題を解決することにより SDGs の達成を目指す、国内の団体による優れた取組を対象とします。STI については、分野、用途、新規性、技術水準等の要件を設けません。広く国内外へ展開ができるような取組を対象とします。

２．主催・後援

主催　　国立研究開発法人科学技術振興機構
後援　　文部科学省

３．応募について

１）応募要件

・STI を用いて社会課題を解決することにより SDGs の達成を目指す、地方自治体、民間企業、大学等（国公私立大学、高等専門学校、公設試験研究機関、国立研究開発法人等）、公益法人・NPO 等の非営利法人、教育機関（高等学校、中学校等）、自治会やサークル、市民ネットワーク等の任意団体、その他有志によるグループ等、国内の団体による取組であること（法人格の有無は問いません）。

・応募時点において、取組が計画や研究段階ではなく、社会課題解決のための具体的な活動実績を持つものであること。

・応募および選考において日本語での対応が可能であること。

・自薦での応募であること。

※本資料では 2023 年度優秀賞受賞取組である株式会社モリサワの「UD デジタル教科書体フォント」を使用しています。

２）応募から表彰までの流れ

応募期間	選考委員会による審査	結果発表	表彰式
＜4/23～7/8＞	＜7 月～9 月＞	＜10 月中旬＞	＜10 月下旬＞
応募申請用紙に必要事項を記入し、Web サイトから応募	書類選考、面接選考の２段階で審査。書類選考にて面接選考対象取組を決定（書類選考の結果は９月上旬頃に通知）	JST からのプレス発表を実施（受賞団体には事前に通知）	JST が主催する「サイエンスアゴラ」にて実施予定*1)

*1）：サイエンスアゴラについては、こちらをご覧ください。　https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/

３）応募期間

2024 年 4 月 23 日（火）～7 月 8 日（月）

４）応募方法

本要領の内容をよくご確認のうえ、本アワードの Web サイトに掲載の応募申請用紙に必要事項を記入し、「応募サイト」からご応募ください。応募申請用紙の記入にあたっては、用紙付属の「記入上の注意事項」も参照ください。

※応募要領等掲載ページ（「STI for SDGs」アワード Web サイト・公募情報のページ）：
https://www.jst.go.jp/ristex/sdgs-award/proposal/index.html

※応募サイト：　https://form2.jst.go.jp/s/sdgs-award2024

5）応募時の留意事項

応募に際しては、以下の点にご留意ください。また、「FAQ 一覧」も併せてご確認ください。

・本アワードでは STI を活用した国内の団体による社会課題解決のための取組を対象としており、以下のようなものは審査の対象外となる場合があります。
  - 取組の中で科学技術の活用における工夫が認められないもの（応募申請用紙には、活用している科学技術の詳細や活用において工夫した点等を必ず記載ください）
  - 個人のみでの活動

・「STI for SDGs」推進を意識した製品開発・販売、技術振興や人材育成のための活動等で応募される場合は、必ず対象となる製品や技術を活用した社会課題解決の成果や、活動内で活用している科学技術の内容を応募申請用紙に記載してください。

・１つの団体から複数の取組を応募いただくことは可能ですが、必ず取組ごとに１件ずつ応募資料を提出してください。複数の取組を１件の応募申請用紙でまとめてご応募いただくことはできません（目的としている社会課題解決のために複数の活動の組み合わせが必須の場合は、この限りではありません）。

・大学や研究機関等で行われている研究テーマの内容のみではご応募いただけません。必ず、研究成果として得られた社会課題解決の実績の内容も応募資料中に記載してください。

・審査は全て日本語で行います。

4. 表彰について

選考委員会による審査を実施のうえ、以下の受賞取組を決定します。

・文部科学大臣賞（1 点）
　最優秀賞として１件の取組を選出します。

・科学技術振興機構理事長賞（1 点）
文部科学大臣賞に次いで優れた取組の中でも、STI の活用において特に優れている 1 件の取組を選出します。

・優秀賞（4 点程度）
文部科学大臣賞に次いで優れている 4 件程度の取組を選出します。

・次世代賞（3 点程度）
大学生、高校生等の若い世代の方が主体となって活動している優れた取組 3 件程度を選出します。但し、その他の賞にふさわしいと判断された場合は、次世代賞以外の賞に選出する場合があります。

※ 賞の名称、種類、点数等は変更になる場合があります。

※ 応募内容に虚偽記載があった場合、応募者が法令違反の容疑により逮捕され又は逮捕を経ないで公訴を提起された場合等、不正又は不誠実な行為があった場合は、表彰の対象としないことがあります。

5. 選考について

1）選考方法

選考は、以下の通り選考委員会における書類選考と面接選考の 2 段階にて実施します（選考委員会委員一覧は別紙 1 参照）。

・応募いただいた取組について書類選考を実施し、面接選考に進む取組を決定します。面接選考の結果により、表彰対象となる取組を決定します。

・面接選考は以下の日程にて行う予定です。**面接の具体的な時間、順番等については、書類選考結果通知の際に事務局よりご連絡いたします。必ず指定の日程にてご出席ください。**

（実施日）　9 月 17 日（火）［予定］
※1 団体につき 30 分程度を予定しています（10 分以内程度のプレゼンテーションと質疑を予定）。
※面接選考の日程は予告なく変更する場合があります。変更は Web サイトにてお知らせします。

（実施形式）オンライン［Zoom 利用を予定］

・面接選考の際は、応募時の申請書とは別にプレゼンテーション資料を提出いただきます。

・面接選考には必ずしも応募時の代表者の方に出席いただく必要はありませんが、実際に取組に直接関わっている方、取組内容をよく知っている方の出席をお願いします。次世代賞の対象となる取組においては、可能な範囲で実際に取組を行っている学生、生徒の方の面接への参加もお願いします。

・評価は包摂性、統合性、科学技術・イノベーションの活用、革新性・独創性等、8 つの項目を元に実施します（評価項目詳細は別紙 2 参照）。

・より大きな社会変革で SDGs の達成を目指すため、活動の分野を問わず「公正な移行」[*2] を意識した取組や、SDGs の各ゴールに定められる具体的なターゲットを意識した取組を歓迎します。

*2：「公正な移行（Just Transition）」とは、“環境・経済・社会それぞれの安定を守りながら、より良い持続可能な社会を作っていく”ことを示す言葉で、特に気候変動への対応の中でよく使われるものです。

２）選考結果の通知

・書類選考の結果は９月上旬頃に代表者の方にご連絡します。

・面接選考の結果は 10 月初旬頃に面接に参加された全団体の代表者の方にご連絡します。

・選考に関する照会は受け付けません。

6. 表彰式および、その後の受賞取組の周知について

・表彰式（または関連イベント）は、10 月 26 日～27 日に開催予定の「サイエンスアゴラ 2024」内で実施します。詳細は Web サイト等でお知らせしますが、受賞された団体の皆様には、表彰式（または関連イベント）の場にて、ご自身の取組紹介等を行っていただく予定です。

・受賞された団体の皆様に対しては、その取組の素晴らしさを周知し国内外での活用を促す目的で、各種メディアでの取組のご紹介機会や、イベント・セミナーにおける出展、ご登壇機会等をご紹介します。それに伴い、取材や各種資料等のご提供につきご協力をお願いする場合があります。いずれも任意のものとなりますが、本アワードが目指す好事例の可視化と広範な展開のため、是非ご協力をお願いいたします。具体的な内容は受賞後に随時ご案内しますが、施策例は下記の「受賞後の取組周知策の例」を参照ください。

・受賞には至らなかった場合でも、選考過程で一定の評価を得た取組については、JST の情報発信サイト等でご紹介することがあります。

＜受賞後の取組周知策の例＞

受賞取組については、以下のように各種セミナーやイベントへのご登壇機会、活動連携のためのパートナーとの出会いの機会等をご紹介する予定です。活動の周知や発展のためにご活用ください（下記は一例・イベントについては年度により内容が変わる場合あり）。

- サイエンスアゴラでの表彰式（または関連イベント）におけるご自身の取組紹介の実施
- 取組内容周知を目的とした、JST が主催・共催・関係するイベントやセミナー等への展示参加、ご登壇機会の紹介

【直近のイベント・出展事例】

- エコプロ［日経新聞社主催］での JST 出展ブース内展示
- サイエンスアゴラ地域連携企画での事例紹介展示

※サイエンスアゴラ in 仙台（2023 年 3 月）、サイエンスアゴラ in 信州（2024 年 3 月）　など

- 取組内容を紹介する事例集冊子への掲載（冊子は各種イベントでの配付・Web でも公開）
- 取組の発展につながるネットワーキング機会や情報の提供（JST のマッチングプランナーとの面談、ファンド事業のご紹介、関連機関との連携機会のご紹介　など）
- Science Portal，JSTnews 等、JST が運営する Web サイトや SNS での取組ご紹介、外部メディアと連携した取組ご紹介　　他

＜お問合せ先＞

国立研究開発法人科学技術振興機構　社会技術研究開発センター

「STI for SDGs」アワード事務局

E-mail：　sdgs-award@jst.go.jp

別紙Ⅰ：選考委員会　委員一覧

（敬称略，委員：50 音順）

役割	氏名	所属・役職
委員長	蟹江　憲史	慶應義塾大学大学院　政策・メディア研究科 教授
委　員	上田　壮一	一般社団法人 Think the Earth 理事
委　員	小原　愛	一般社団法人 Japan Innovation Network ディレクター
委　員	須崎　彩斗	株式会社 三菱総合研究所 事業基盤部門　統括室長
委　員	新田　英理子	一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク（SDGs ジャパン） 事務局長

別紙２：評価項目詳細

No.	項目	視点
1	包摂性	・ SDGs の「誰一人取り残さない」という理念に沿った取組であるか。 ・ 人権の尊重や多様性の観点を勘案した取組であるか。
2	統合性	・ 単一の社会課題、SDGs 目標だけでなく、複数の社会課題の解決、SDGs 目標の達成を目指す、統合的解決の視点を持った取組であるか。
3	科学技術・イノベーションの活用	・ 対象となる社会課題に対して、科学技術・イノベーションが重要な役割を担っている取組であるか。
4	革新性、独創性	・ 社会課題の解決手段や着眼点にオリジナリティのある取組であるか。
5	展開性	・ 課題解決に向けた取組に普遍性があり、他地域への水平展開が可能な取組であるか。
6	継続性	・ 社会課題の解決が一時的なものではなく、持続的な解決が図られる取組であるか。
7	マルチステークホルダー参加型	・ 社会課題の当事者が主体的に参加している取組であるか。 ・ 多様なステークホルダーが参画し、それぞれの英知を結集した取組であるか。
8	ストーリー性	・ SDGs の達成、または社会課題の解決に向けたストーリーが明確な取組であるか。

別紙３：応募申請用紙記入要領

次ページ以降に記載の内容を参考に「応募申請用紙」に記入のうえ、応募サイトよりご応募ください。

・応募要領掲載ページ：https://www.jst.go.jp/ristex/sdgs-award/proposal/index.html
　　※応募申請用紙のフォーマットは、こちらのページからダウンロードいただけます。

・応募サイト：https://form2.jst.go.jp/s/sdgs-award2024

■ 応募申請用紙①（応募団体基本情報）

- 入力欄の下にある「留意事項および個人情報の取り扱いについて」の内容を必ずご確認のうえ、チェックボックスにチェックを入れてください。

記入項目		応募内容
基本情報	応募団体名称　※　（25文字以内）	通称等可。連名応募の場合は代表の団体名のみ記入。
	取り組み名称　※　（35文字以内）	
代表者情報 ＜注意事項＞ ・代表者の方への事務連絡の送付に支障がある場合は、必ず「事務連絡の可否」欄を"不可"にしてください。 ・高校生以下の方が主体の活動の場合、代表者は活動内容をご存知である生徒以外の成人の方としてください。	所属団体名［代表者］　※	以下留意のうえ、代表者の方の情報を記入。 ・代表者の方への事務連絡が不可の場合は「事務連絡の可否」の欄で「不可」を選択。 ・**高校生以下の方が主体の活動の場合は、生徒以外で活動内容を承知している成人の方（例：指導教諭，部活顧問，地域の支援者等）の情報を記入。**
	所属部署・学部等［代表者］	
	氏名［代表者］　※	
	氏名（カナ）［代表者］　※	
	役職［代表者］	
	郵便番号［代表者］　※	
	住所：都道府県［代表者］　※	
	住所：市区町村以下［代表者］	
	電話番号［代表者］　※	
	メールアドレス［代表者］　※	
	事務連絡の可否　※	
担当者①情報 ・省略可 ・入力の場合は（※）は必須 ＜注意事項＞ ・代表者の方への事務連絡が不可の場合は必ず記入してください。	所属団体名［担当者①］　（※）	・代表者の方の他に、事務連絡を希望する方の情報を記入。代表者の方への事務連絡が不可の場合は最低１名の方の連絡先の記入が必須。 ・代表者の方への事務連絡が可の場合、且つ、その他の方へのご連絡が不要な場合は、担当者欄は記入不要（①、②とも）。
	所属部署・学部等［担当者①］	
	氏名［担当者①］　（※）	
	氏名（カナ）［担当者①］　（※）	
	役職［担当者①］	
	郵便番号［担当者①］　（※）	
	住所：都道府県［担当者①］　（※）	
	住所：市区町村以下［担当者①］　（※）	
	電話番号［担当者①］　（※）	
	メールアドレス［担当者①］　（※）	
担当者②情報 ・省略可 ・入力の場合は（※）は必須	所属団体名［担当者②］　（※）	
	所属部署・学部等［担当者②］	
	氏名［担当者②］　（※）	
	氏名（カナ）［担当者②］　（※）	
	役職［担当者②］	
	郵便番号［担当者②］　（※）	
	住所：都道府県［担当者②］　（※）	
	住所：市区町村以下［担当者②］　（※）	
	電話番号［担当者②］　（※）	
	メールアドレス［担当者②］　（※）	
連絡事項		応募にあたり事務局に連絡したい内容がある場合は本欄に記入。

■ 応募申請用紙②（取組内容詳細）

No.	項目	内容
1	**応募団体名称** ※応募申請用紙１から自動転記	１，２項は記入不要（応募申請用紙①の内容が転記される）。 ※転記されない場合は直接記入
2	**取り組み名称** ※応募申請用紙１から自動転記	
3	**取り組み概要** **（80文字以内）**	取組の概要を簡潔に記入（受賞の場合は、本欄の内容を公開用情報として使用予定）。
4	**活動期間（または開始時期）**	年（西暦）または年月単位でも可。現在活動中の場合は開始時期を記入。
5	**活動を行っている主な地域**	主に活動している具体的な地域を記入。地理的な特定が難しい場合、活動の領域等も可。
6	**取り組みに参加している人数** ※必要に応じて内訳も記入 **※体制の説明が必要な場合は申請用紙4に記載（任意）**	応募取組に主体的・定常的に関わっている人数（概数可）を記入。必要に応じて内訳も記入。体制図を使った説明が必要な場合は応募申請用紙④に記入（任意）する。大学生以下の取組では、部活動顧問や指導教員等、日常的に支援・指導をしている方を含めることも可。
7	**連名応募団体名**	連名応募時に代表団体以外の団体名を記入。表彰の際には本欄記載の団体名を表彰対象として公表し表彰状へも記載するが、一部資料等にて省略または注記とする場合がある。 **※連名団体は、代表団体と同様に表彰対象とみなせる主体的な活動を行っている場合に限る。**
8	**解決を目指す社会課題** **（箇条書き推奨）**	取組を始めたきっかけや、取組によって解決を目指す社会課題の内容を簡潔に記入。 箇条書き推奨。
9	**特に重視するSDGsのゴール・ターゲット** **（ゴールは５個まで）** **※C列：重視するゴールをプルダウンメニューから選択** **D列：選択した各ゴールで定められている具体的なターゲットのうち、特に意識しているものがあれば番号を記入**	・左の欄（用紙上のＣ列）で、活動において特に意識している SDGs 目標の番号を選択（１個以上必須・５個まで）。 ・右の欄（用紙上のＤ列）には、各目標に定められているターゲットや指標の中で、特に意識しているものがあればその番号を記入（任意）。 **＜参考：SDGs とターゲット新訳＞** **SDGs のゴールとターゲットについてはこちらもご参照ください。** **https://xsdg.jp/pdf/SDGs169TARGETS_ver1.2.pdf**
10	**取り組みで活用しているSTI** **（技術概要を箇条書きで記入）**	取組において活用している STI の概要を箇条書きで記入（詳細な説明は、項番 11 の「取組内容詳細」に記入）。

No.	項目	内容
11	**取り組み内容詳細** **（1,500文字以内）**	別紙に掲載の８つの評価項目を踏まえ、活動の内容、特長、実績等の詳細を記入。説明内容には、以下の内容を必ず含めること。 ・活動の具体的な内容 ・活動における体制：主体的に活動している方は誰か、役割分担、ステークホルダーとの関係等 ・取組で活用している STI の詳細：専門家でなくても理解できる内容で、STI の内容、特徴、効果のエビデンス（あれば）等具体的に ・取組が社会に及ぼす影響：取組の成果として、具体的な事例も交えて説明［例：社会課題の具体的な解決実績、取組が他者（地域やステークホルダー）にどのような変化を与えたか　等） ・SDGs 達成に向けた意識や活動における工夫：SDGs の達成のために活動の中で特に意識していること、達成のために特に工夫している点　等 ・取り組みにおける課題：取組推進において、現在直面している課題や障害となっている事柄、また、それを克服するための対策や工夫、連携先のアイディア等
12	**今後の活動計画** **（800文字以内）**	今後、この活動をどのように継続・拡大していくかについての計画があれば、具体的に記入。特に他地域への展開に関する計画がある場合は、時期や方法等を含めて詳細に記入。 ※大学生以下の活動である場合は、今後ご自身の成長にどう活かすかといった内容も可
参考情報	**活動の段階に関する自己評価** **※ご自身の活動に最も近いものをプルダウンから選択**	プルダウンメニューの３つの選択肢の中から、応募取組の活動段階に最も近いと考えるものを選択（基本要件を満たしていれば、どの段階でも審査対象になる）。
	活動に関する補足情報（情報発信サイト等）	取組内容の理解に役立つ Web サイト、動画情報等がある場合は記入。但し、目的にそぐわないもの、著しく長時間の動画等、参考情報としてふさわしくないと判断した場合は、採用しない場合がある。
	過去の受賞歴	応募取組または取組に活用している STI について、以下に該当するものがあればそれぞれの欄に記入。多数の場合は、代表的なもののみ（3 点程度）で可。 － 本アワード以外の表彰制度での受賞実績：制度主催機関、受賞時期、賞の名称を記入 － 公的なファンディングや支援事業等での採択実績：採択年度、事業の名称と運営機関、採択内容（研究タイトル等簡易なもので可）を記入
	ファンド事業などの採択実績	

■ 応募申請用紙③（2030 年に実現したい社会）　※本用紙への記入は必須です

・ 2030 年の社会がどう変わっているべきか、この取組を通してどのような社会に変えていきたいか等、2030 年に実現したい社会の在り方に関しての考えを記載してください。図表やイメージ等を使用してもかまいません。

■ 応募申請用紙④（体制図・任意）

・ 本用紙への記入は任意ですが、活動の体制につき体制図等を用いて説明を行いたい場合は、枠内に説明内容を記入してください。

別紙４：委員長メッセージ（2024 年度　公募開始に寄せて）

今年度も「STI for SDGs」アワードの募集を開始しました。本アワードは、科学技術・イノベーション（STI）が SDGs（持続可能な開発目標）の達成に一層貢献することを目標に 2019 年度に創設し、今年で 6 回目の募集となります。毎年多数のご応募をいただいていますが、近年は大学生や高校生といった次世代を担う方々が社会課題の解決に真摯に向き合われている内容の応募が増え、非常に頼もしく感じています。昨年度は、受賞までにはいたらなかったものの、初めての小学生による素晴らしい取り組みの応募もありました。

一方で、国連から発表された「持続可能な開発に関するグローバル報告書 2023（GSDR 2023）」(*1)でも示されているように、SDGs の進捗は思わしくありません。現在はスポーツでいえばハーフタイムを過ぎたタイミングですが、COVID-19 のパンデミックやロシアによるウクライナ侵略、イスラエル・パレスチナ情勢の緊迫化などの影響もあり、進捗が順調なターゲットは全体の 15%程度であり、ターゲットの半分近くは不十分、約 30%は停滞・後退している状況です。例えば、私たちが暮らす日本では、SDGs という言葉の認知度は 9 割を超え世界でもトップクラスですが、その内容の理解度や行動の面では残念ながら世界最下位であるという調査結果もあります。私たち自身が SDGs の達成を自分事としてとらえ、危機感を持って社会変革を進めていかなくてはなりません。そして、昨年改訂された政府が定める「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」(*2)にも、科学技術が“SDGs 達成の手段として大きな役割を果たしうるものである”と明記されているように、科学技術には社会変革の原動力として大きな期待が寄せられています。

「STI for SDGs」アワードでは、今年度も引き続き、科学技術の力を十分に活用して社会課題を解決する取り組みを募集します。特に次世代を担う若い方々の活動、大学や企業での研究成果を活用した取り組み、市民社会においてさまざまな立場の人々の連携による活動などはもちろん、誰もが希望を持って生きられる持続可能な未来を作るため、皆様からの多様な取り組みのご応募をお待ちしています。

(*1) 国連発行「持続可能な開発に関するグローバル報告書 2023（GSDR 2023）」
https://sdgs.un.org/gsdr/gsdr2023

(*2) SDGs 推進本部発行「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（2023 年 12 月 19 日）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/kaitei_2023_jp.pdf

2024 年 4 月
「STI for SDGs」アワード選考委員会委員長　蟹江　憲史
（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）